

教育

子どもサイエンスクラブ2019

三鷹

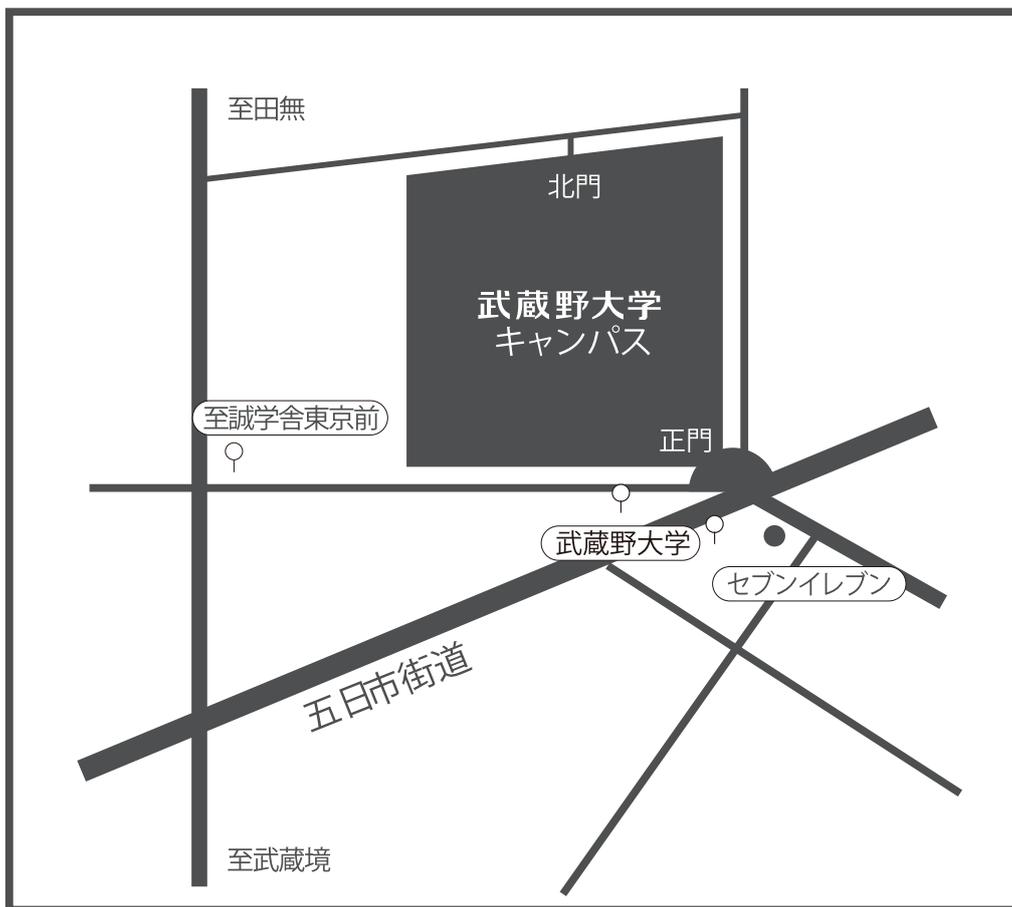
311055

母なる太陽の科学

受講料 (振込額)	親子1組2,500円、子供のみ、または子供2人目より1,500円 教材費300円		
必携テキスト	――		
講座概要	曜日	日曜日	
	時間	10:30～12:00	
	回数	全1回	定員 15名
	開講場所	武蔵野大学 武蔵野キャンパス 理科実験教室	
講師	本学教育学部児童教育学科教授 高橋 典嗣 (たかはし のりつぐ) 武蔵野大学教育学部児童教育学科特任教授。 武蔵野大学大学院教育学研究科特任教授。 専門は太陽コロナ、地球接近小惑星、スペースデブリで、地球を取り巻く宇宙環境をテーマとした研究と観測に従事してきた。これまでに日本学術会議天文学国際共同観測専門委員、日本学術観測団団長(ザンビア皆既日食)、学校科目「地学」関連学会協議会議長、天文教育普及研究会副会長、日本スペースガード協会理事長などを歴任。 著書に『巨大隕石から地球を守れ』(少年写真新聞社)、『46億年の地球史図鑑』(ベスト新書)、『138億年の宇宙絶景図鑑』(ベスト新書)、『星空の楽しみ方』(洋泉社)など多数。		
	内容	太陽は、46億年前に生まれました。そのとき一緒に私たちの地球や惑星も生まれました。その太陽の恵みを享受し、地球には40億年前に生命が誕生しました。私たちの源でもある母なる星「太陽」を最初に天体望遠鏡で観測したのはガリレオガリレイで、1609年のことでした。彼は、太陽光球面に現れる黒点をスケッチし、詳細な観測記録を残しました。以降、今日まで太陽黒点の観測が続けられています。現在では、白色光(目で見ることができる光)だけではなく、あらゆる波長で太陽を観測しています。 これまでの人類と太陽との関わりから、天体望遠鏡で観測される太陽表面の現象、太陽コロナや太陽系惑星空間、地球に及ぼす影響などについて、地上からの太陽望遠鏡による観測と宇宙からの太陽観測衛星により得られた太陽画像を見ながら、最新の太陽科学について学習します。 当日、晴れていれば実際に白色光による太陽面の黒点や白斑、粒状斑の観察、H α 線によるプロミネンスの観測、太陽スペクトルの観察を行います。	

■ 武蔵野大学 武蔵野キャンパス ■

〒202-8585 東京都西東京市新町1-1-20



交通

JR(中央線・総武線)・地下鉄東西線・京王井の頭線		西武新宿線	西武池袋線
吉祥寺駅下車 北口バス① 向台町5丁目行、 桜堤団地行、 約15分 「武蔵野大学」下車	三鷹駅下車 北口バス③ 武蔵野大学行、 武蔵境駅行、武蔵小 金井駅行、約10分 「武蔵野大学」下車	武蔵境駅下車 北口バス③ 三鷹駅行、 武蔵野営業所行、 約7分 「武蔵野大学」下車	田無駅下車 北口バス⑤ 武蔵境駅行 約 5分 「至誠学舎東京前」 下車、徒歩5分
			ひばりヶ丘駅下車 南口バス① 武蔵境駅行 約20分 「至誠学舎東京前」 下車、徒歩5分